

1. 平清盛 2. 平将門 3. 藤原純友 4. 源頼朝

1. 最澄は高野山に延暦寺を建て、真言宗を広めた。 2. 空海は比叡山に金剛峯寺を建て、天台宗を広めた。 3. 最澄は比叡山に金剛峯寺を建て、天台宗を広めた。 4. 空海は高野山に金剛峯寺を建て、真言宗を広めた。

1. 聖武天皇が、国ごとに国分寺や国分尼寺を建立した。
2. 桓武天皇が、山背国（現在の京都府）の平安京へ都を移した。
3. 白河上皇が、院政を始めて有力な寺院を保護した。
4. 後醍醐天皇が、鎌倉幕府を倒して天皇親政を復活させた。

1. 地方の有力な武士団を直属の軍隊として組織し、圧倒的な武力によって朝廷内の反対勢力を排除する手法	2. 遣唐使の廃止によって外国の影響を排除し、藤原氏独自の法律を定めて朝廷の官僚機構を支配する手法	3. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法	4. 聖徳永年私財法を背景に広大な荘園を集積し、天皇から経済的に完全に独立した政府を樹立する手法
--	---	---	--

1. 貿易によって得られる莫大な利益を平氏一門の経済的基盤とし、また輸入された宋銭が国内で流通するきっかけとなった。	2. 遣隋使の派遣を継続することで、大陸の高度な律令制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇中心の国づくりを強固にした。	3. 長崎の出島を窓口として、銀や銅を輸出する代わりにキリスト教の布教を伴わないヨーロッパの文化を導入した。	4. 倭寇による被害を防ぐために、明の皇帝から交付された勘合という札を用いて、正式な貿易船であることを証明させた。
--	---	--	---

1. 鴨長明が乱世の無常を記した『方丈記』 2. 山上憶良らが詠んだ歌を収めた『万葉集』 3. 菅原道真が遣唐使の廃止を提案した際の『建議文』 4. 清少納言が記した『枕草子』

1. 天皇の母方の祖父という立場を確保し、天皇との血縁関係を極めて強く保持し続けたから。

2. 律令に基づき、地方の国司を武士の中から選ぶことで、軍事的な統制力を高めたから。

3. 「武士の気風」を尊ぶことで、新興の武士階級と協力して地方の反乱を鎮圧したから。

4. 班田収授の法を厳格に運用し、全ての農民に土地を均等に配分することで税収を安定させたから。

1. 受領 2. 管領 3. 執權 4. 檢非違使

1. 武士の台頭を抑えるため、軍事力を強化して東北地方の経営を断念した。
2. 肥大化した奈良の寺院勢力から政治を切り離し、律令政治を再建しようとした。
3. 白村江の戦いでの敗北を受け、外敵からの防御を固めるために内陸部へ都を移した。
4. 大仏造立によって国を治めるため、東大寺を中心とした仏教政治を推進した。

1. 平安京から見て不吉な角とされる北東（鬼門）に位置し、都を災いから守る役割を担った。	2. 天皇の住まいである御所のすぐ隣に配置され、政治の意思決定を直接補佐する役割を担った。	3. 遣唐使が東シナ海へ出発する際の航海安全を祈願するため、難波津に近い山に建設された。	4. 奈良の旧仏教勢力との連携を深めるため、平城京と平安京の中間地点に建設された。
--	---	--	---

1. 北条時宗が、大陸から襲来した元軍に備えるために、九州の博多湾沿岸に防塁を築かせた。
2. 大陸から伝わった仏教を政治に取り入れるため、聖武天皇が国ごとに国分寺や国分尼寺を建てた。
3. 藤原頼通が、極楽浄土を地上に再現しようと願い、宇治に平等院鳳凰堂を建立した。
4. 武田信玄などの戦国大名が、自分の領国を独自に支配するために「分国法」を定めた。

1. 藤原氏によって大宰府へ左遷された後、現地で没したが、後に学問の神様として信仰されるようになった
2. 摂政の職につき、藤原氏の全盛期を築いたことで、娘を次々と天皇の后に送った。
3. 平氏の武士として力をつけ、兵庫の港を整備して宋との貿易を盛んに行った。
4. 遣隋使として大陸に渡り、十七条の憲法を制定して天皇中心の政治を目指した。

1. 自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の祖父（外戚）として政治を主導したため。

2. 唐の制度にならって遣唐使を継続し、大陸の最新の法制度や文化を独占的に取り入れることで、国内の政治改革を主導したため。

3. 地方の有力な武士団を私兵として組織し、軍事的な圧力によって他の貴族を排除し、独自の行政組織を構築したため。

4. 全国の荘園をすべて自身の領地として管理し、朝廷の財政を完全に掌握することで、経済的な側面から天皇を支配したため。